

エゴグラムを用いて組織風土を知りチームワークに役立てよう

(医)介護老人保健施設

春日リハビリテーション・ケアセンター

小林恵、宗方まゆみ、小木智恵子、吉田馨、阿部英人

【はじめに】

介護老人保健施設という中間施設で、在宅復帰を目指すために多職種協働の役割は大きい。より良いチームケアをするには、スタッフがやり甲斐をもち活気ある職場づくりをすることは大変重要である。自己理解を深めるためエゴグラムを活用してみた。

【研究目的】

<目的> 自我状態を理解することで自己啓発に活かす

<期間> 平成19年9月～20年3月

<対象> 当老健 看護師11名 介護福祉士32名

<方法> エゴグラムを施行 結果を個人に戻し再度施行

実施した前後の職種別・男女別の統計をとり傾向を見る。

【結果】(エゴグラム20点満点)

		CP	NP	A	FC	AC
全体	1回目	8	13	8	12	9
	2回目	9↑	15↑	11↑	13↑	11↑
看護	1回目	8	14	10	10.5	7
	2回目	12↑	15↑	13↑	14↑	10↑
介護	1回目	8	13	8	11	7
	2回目	8→	15↑	13↑	14↑	10↑
		看護 CP(P=0.03)		介護 A(P=0.00)		

【考察】

エゴグラムの結果、各職種における教育システムの違い、経験年数の違いなども関係していることがわかった。看護はCPが上昇し医学的モデルを重視する傾向があり、介護はNPの上昇から見ても生活モデルを重視することが伺える。1回目より2回目の総エネルギーが上昇し項目別でも変化がみられたことは、エゴグラムを視覚化しただけでも人は変化するものだと言える。

ペプロウは「独力で解決する自分を肯定的に評価でき自信を得て自分の価値を高めることができる。これが人格的熟成に繋がる」と述べている。

【結 論】

エゴグラム自体の効果として、エネルギーと客観的な考えが上がる傾向がある。自己成長を促すツールとして他職種と連携を取って行くために役立つものであると推察された。

自我状態を知ることにより、相手の立場を理解する事にも繋がることを学んだ。当老健において自己啓発の手段とし、チームワーク作りのひとつとして今後もエゴグラムを活用していきたい。